## topics いもち病空散防除 01

順調に水稲の生育が進んでいる中8月3日、当ＪＡ青年部の水田のいもち病に対する空散防除が行われた。

青年部員の中に無人ヘリコプターを操作できる人が多く居る中、元青年部長の林崎孝人さんがオペレーターを務め、15ａを散布した。水田を2往復したが1分かからずに終える事が出来た。

見ていた青年部員は先輩の背中を見て散布の仕方やスピードを見て話し合いながら学んでいた。

ヘリコプターの風圧と音が響いた

## topics 病害虫防除に一致団結 02

8月9日、五所地区の田沢稔さんと三和地区で桃園を営んでいる増田誠さんが相馬管内の桃を栽培している園地を周り生態の現状を確認した。

せん孔細菌病やナシヒメシンクイなどが見られたが中でも頭を悩ませていたのがサクセスキクイムシという害虫の被害であった。

桃を栽培する同志として色々な知識と情報を交換しこれからの管理や防除について話し合っていた。

キクイムシの被害痕を見つける増田さん

## topics 今年度初選果開始 03

8月9日から恋空の入庫が相馬支所にて始まり、8月15日、今年度最初の選果が始まった。

今年度の恋空は46玉中心のものが多い状況だったと山内耕平販売課センター長は述べた。

また、入庫量は１５８８箱と去年度と同程度の入庫量となった。

これから早生ふじなどの取り扱い品種が多い入庫も控えていることからスムーズに生産者に対応できるようにしていきたい。

新鮮さを維持した恋空がトレイに載せられる

## topics 先端農業技術実演 04

労働力不足に対応する為8月19日、弘前市の石岡紫織氏の園地にて先端技術・機械実演会が行われ、農業者や関係機関が集まった。

実演にはロボット草刈り機を使用して行われ、自動走行の様子や機械についての説明がされた。石岡さんの園地にて機械のモニターが行われており、「乗用機械の方が早いという意見もあるが、時間がかかる分動いている時間が多い為ネズミ穴が減ったり、何より危なくなくて良い」と使ってみての感想を伝えていた。

ロボットを使用しての感想を述べる石岡さん

## topics 05 多種多様な栽培方法を学ぶ

相馬地区支会連合会では8月22日、夏季研修としてJAつがる弘前で行なっている新しい栽培方法と昨年度農林水産大臣賞を受賞した下山茂氏と成田淳逸氏の園地を視察した。

JAつがる弘前では「ジョイント栽培」「トールスピンドル栽培」「朝日ロンパス栽培」の3種を試験的に行っており、「より生産者がこれらの栽培を現実的なものに出来るような目線で取り組んでいる」と今回講師を務めた廣田廣央（ひろなか）JAつがる弘前指導部指導課長は重点を置いて説明していた。

仕立てのポイントに聞き入る会員

## topics 06 生産者との目揃え行う

今年最後の巡回講座が8月23日に各地区で行われた。着色管理や今年度の病害虫発生状況、これからの散布計画が話され、販売課からつがるときおうの目合わせが行われた。また、イフコでの入庫時の注意点が話されたほか、生産者からの多くの質問が寄せられ理解を深めていた。

さらに、高値精算を目指すため、収穫したりんごは早期入庫を徹底してもらうよう再確認していた。

収穫適期の色合いを確認する生産者

## topics 07 りんご評価員目揃えする

りんご評価員と当JA職員は8月26日、りんご目揃えを行なった。今回きおうの評価を行い色択・玉揃・量目・欠点・総合のそれぞれ評価基準を決めた。

黄色品種の為、色の程度の判断が難しい状況ではあったが、全員が基準のものをしっかり把握しこれからの評価に備えていた。

意見を出し合い評価基準を定める

## topics 08 新型選果機完成を祝う

昨年10月に計画を行い8月29日、新型選果機「フリートレー式選果機」が無事完成し、完成を祝う竣工式が行われた。

式には工事関係者や取引先市場関係者など76名が出席した。祈願や玉串奉奠終了後、竣工始動セレモニーが行われ、組合長はじめ弘前市長ら6名が選果機始動のスイッチを押し、出席者全員で稼働を喜んだ。

スイッチと共に選果機全体が動きだした。